

La mode illustrée ; journal de la famille, 1860–1912

Paris, Firmin Didot (文献番号 8-25)

Hiler p.619 Colas 2082 Lipperheide 4690

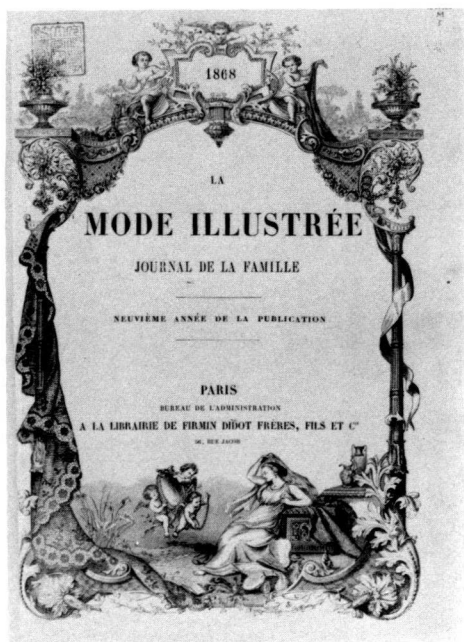
モード雑誌「ラ・モード・イリュストレ」1860年から1912年まで

“モード図誌”の意で、19世紀後半に現れたモード誌のうちでは最も重要なものの一つ。1860年に始まり、1930年代末まで続いたフォリオ判の大型雑誌で、そのほとんどをカバーすることができたのは、むしろぎょうこう(僥倖)というべきであろう。この雑誌は毎週日曜日に、2万部程度発行されたといわれる。

また、このモード誌は婦人用下着を始めて掲載した雑誌の一つである点でも知られており、トリミングのレースや刺繍までが綿密に描写されているもの、この場合の人体そのものは省かれている。当時一般のモード誌では、下着やコルセットを描き出すことはタブーとされていたが、本誌は——人体を抜きにしてではあるが——それを大胆にやっけてのけたというわけである。

本誌はまた、手彩色のプレートのほとんどすべてが抜群に優れている点でも知られており、とりわけそれらは、19世紀中期に活躍したフランスの有名なモード画家三姉妹によって描かれていることに起因している。三姉妹とは、19世紀前半のフランスで活躍した画家であり、石版画家として知られるアレクサンドル=マリー・コラン(Alexandre-Marie Colin 1798-1875、詳しくは120頁参照)を父とする三人の娘たちで、長女のエロイーズは画家のルロワと結婚したためエロイーズ・ルロワ(Héloïse Leloir 1820-1874)と称し、マリトン店と契約して1855年以來「ラ・ベル・アッサンブレ」誌のプレートを担当した。次女のアデル・アナイス(Adèle Anaïs 1822-1899)は1845年に G. A. トゥードゥーズと結婚して、アナイス・トゥードゥーズ(Anaïs Toudouze)を名乗ったが、それ以前のサインはアナイス・コラン(Anaïs Colin)を用いている。本誌や「ル・フォレ Le Follet」誌(文献番号 8-12)などに多く描いており、そのあとを娘のイサベル(Isabelle Toudouze)に引き継いでいる。三女のロールは結婚してロール・ノエル(Laure Noël 1827-1878)を名乗り、本誌や「ジュルナル・デ・ドゥモワゼル」誌などのプレートの原画を描いた。数は少ないが、彼女の初期のサインはロール・コン(Laure Colin)である。

彼女たちの作品は、有名なガヴァルニ(Gavarni



1804-1866) やダヴィッド (Jules David 1808-1892) らの石版画プレートと共に、1830年から1890年までの60年間を華やかに飾っており、19世紀中期のモード画家として中心的な役割りを果たした。

なお、本館には、三姉妹による本誌の原画アルバム35巻、計1,175枚——これは世界に一例だけなわけであるが——が別に保管されている。

図・左は1868年(明治元年)1月号の扉、図・中は同年9月13日号のエロイーズ・ルロワ原画のプレート、図・右はアナイス・トゥドゥーズ原画のプレート、1888年。

